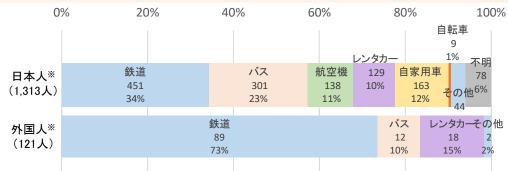


6-1 自動車観光が集中する地区で混雑が発生

観光目的の利用交通手段のうちレンタカーを利用するのは日本人で10%、外国人で15% となっています。

観光目的の訪日外国人とそのレンタカー利用の国別内訳を見ると、中国、台湾、香港、シンガポールのアジア地域が多い傾向にあります。

また、観光シーズンは混雑等が発生する地域も存在しています。



※日本人の調査は、主要観光地・交通拠点17箇所で実施(調査個所はP.45の表に示す17箇所) 外国人の調査は、函館駅周辺で実施

> 図 観光目的の利用交通手段(令和元年(2019年)補完調査結果) 資料:観光地·交通拠点での交通実態調査(R1)



図 観光目的のレンタカー流動実態(令和元年(2019年)補完調査結果) 資料:観光地·交通拠点での交通実態調査(R1)



6-2 新型コロナウイルス感染拡大による影響

函館圏外居住者の休日トリップ数を令和元年(2019年)8月(新型コロナウイルス感染拡大前)と令和2年(2020年)8月で比較すると、函館圏全体で約6割程度減少しています。 地域別では、各市町の郊外部を中心に減少率は高く、市街地部においても50%以上減少しているエリアがほとんどを占めています。

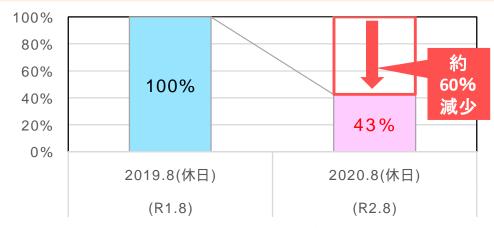


図 函館圏全体休日トリップ数の減少率※

※減少率: 令和元年(2019年)8月(コロナ前)/令和2年(2020年)8月(コロナ禍)×100 資料:混雑統計® ZENRIN

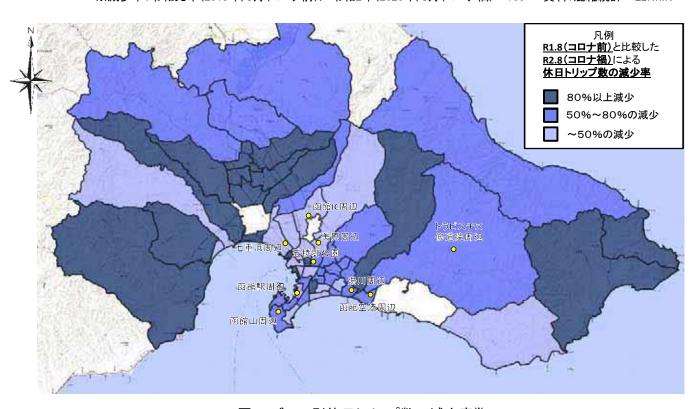


図 Cゾーン別休日トリップ数の減少率※

※減少率: 令和元年(2019年)8月(コロナ前)/令和2年(2020年)8月(コロナ禍)×100

資料:混雜統計® ZENRIN



参考:新型コロナウイルスの影響についての考え方

パーソントリップ調査は新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年(2019年)10月~11月に実施しています。当初、令和2年(2020年)の大型連休時に予定していた観光地でのアンケート調査は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施出来なかったため、アンケート調査に代わり、観光関連事業者を対象にヒアリング調査を実施しました。

今回、将来交通量推計を行う上で、新型コロナウイルスによる影響を現時点では考慮していませんが、今後の状況に応じて影響の確認を行う予定をしています。

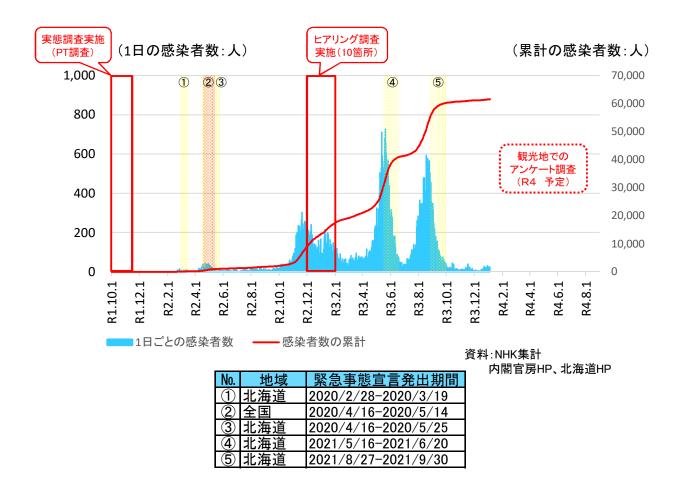


図 北海道内の新型コロナウイルス感染者数の推移



参考:北海道新幹線の札幌延伸時の影響についての考え方

北海道新幹線の札幌開業が令和12年(2030年)に計画されています。札幌開業に伴いJR北海道から経営分離される函館線の函館・小樽間については、北海道新幹線並行在来線対策協議会において、第三セクターによる鉄道運行のほか、バス運行を含めた地域交通の確保方策の検討を行っています。

函館線のあり方については、当該マスタープランの中では検討はしませんが、ケース如何によっては圏域内に与える交通状況や交通流動等の変化が想定されることから、今後の北海道新幹線並行在来線対策協議会渡島ブロック等の検討状況を注視するとともに、必要に応じて当該マスタープランの見直しを検討していきます。

[ケース①:第三セクター鉄道運行] 図館 大クリコー連携 大クリコー・連携 大次の 大次の

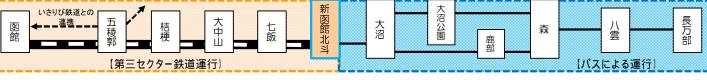


図 検討ケース

資料:北海道新幹線並行在来線対策協議会資料

函館圏の避難交通・受援 (用語) 交通の課題



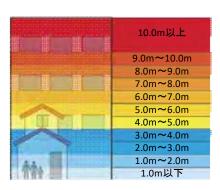
津波浸水予測範囲及び駒ヶ岳および恵山噴火に伴う影響範囲 7 - 1

■津波浸水予測範囲

函館圏の各種災害時における避難所は、各段階に応じて以下の通り設定されており、避 難所までのアクセス確保が重要です。

函館市では来訪者の多い、函館駅周辺や湯川周辺は津波浸水予測範囲内となっています。 北斗市では七重浜周辺が津波浸水予測範囲内となっています。





資料: 函館市防災ハザードマップWEB版

※平成24年6月に北海道が公表した「北海道太平洋沿岸における津波浸水予測図」

図 函館市の津波浸水予測範囲※及び指定緊急避難場所兼指定避難所



資料:北斗市ハザードマップ情報公開GIS

図 北斗市の指定緊急避難場所

7. 函館圏の避難交通・受援交通の課題



7-1 津波浸水予測範囲及び駒ヶ岳および恵山噴火に伴う影響範囲

■駒ヶ岳および恵山噴火に伴う影響範囲

七飯町では一部区域が駒ヶ岳噴火による降下火砕物の危険区域に指定されています。 函館市では一部区域が恵山噴火に伴う火砕流の影響範囲に指定されています。

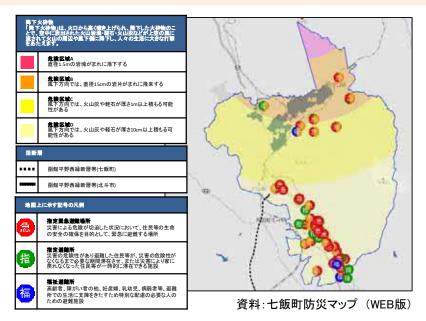
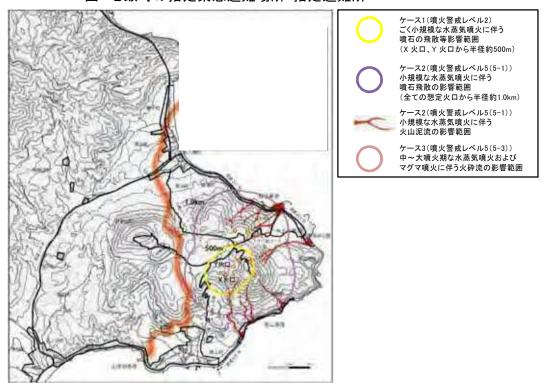


図 七飯町の指定緊急避難場所・指定避難所



資料:函館市恵山火山避難計画

図 恵山の噴火シナリオにおける影響範囲

7. 函館圏の避難交通・受援交通の課題



7-2 津波浸水エリア内の滞在者の安全な避難

津波浸水エリア内ではピーク時間(午後1時台)に11万5千人が滞在し、特に函館駅・フェリーふ頭周辺や湯川周辺には4千人以上が滞在するエリアとなっています。また、函館駅周辺、湯川周辺は来訪者が多く分布しています。

(※避難場所については、地域防災計画等で指定されています)

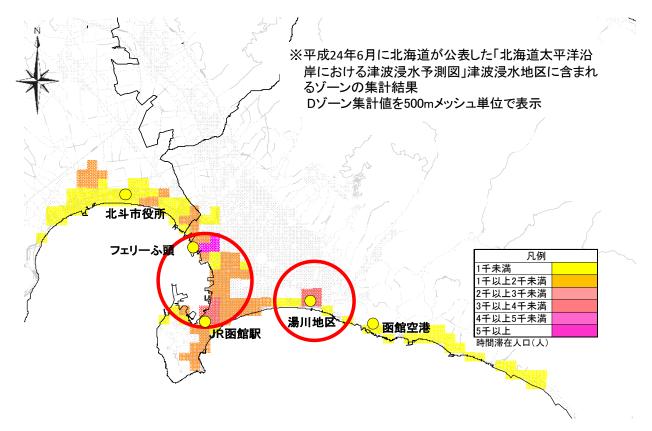


図 津波浸水エリア内の函館圏居住者の滞在人口結果(令和元年(2019年)平日調査結果)



図 津波浸水予測範囲内地域の滞在人口(令和元年(2019年)平日調査結果)